
タイムマシンに乗せた希望

蘭土

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイムマシンに乗せた希望

【Nコード】

N5606K

【作者名】

蘭土

【あらすじ】

僕が昔書いた小説を、少し手を加えて載せただけのものです。

特に深い意味もありません・・・

タイムマシンに乗せた希望（前書き）

あまり細かい所は気にしないで下さい。

タイムマシンに乗せた希望

ある所に博士と助手がいた。

博士は少し欲張りで好奇心があり、助手はいつもいつも博士をおだてるだけであまり働くのは好きではなかった。

しかし二人は確かな才能を持っており、二人ともそのことは自覚していた。

ある日、博士は長年開発し続けたタイムマシンを遂に完成させた。そして助手はいつものようにこう言う。

「素晴らしい発明です。だから毎日言ってたでしよう、あなたは現代のレオナルド・ダヴィンチだと。いや、きっとそれ以上です。さあ早く、それを公開しましょう。私達は歴史に残る人物となるのです！」

しかし博士は少し考えてこう言った。

「いや、それはまだ早い。よく考えたまえ。私達が造ったのだから私達が最初にこれに乗らないでどうする。どうせ地位の高い者が乗りたがるだろう」

「もつともな考えです。しかし危険ではありませんか？」

「ええい、そんな事を言うのなら乗らないでいい。一人で乗ってくる。私の発明を馬鹿にするのなら出て行け」

「すみません、私が馬鹿です。どうか乗せてください」

「勝手にしろ」

しかし本当は助手がいないと心細いのである。

タイムマシンは二人乗りで、外から見ればほとんどガラスの球体だが、中はずいぶん配線がごちゃごちゃしている。

博士は体に配線が絡まってイライラしていた。

「よし、カメラやタバコ、食料は積んだか？後、ライターもな」

「ほんの少し別の時代を除くだけなのにそんなに必要ないでしょう」

「いや、念のためだ。何かあるか分からんからな」

「それで、いつに行くんですか？」

「もう決めてある。黙って付いて来ればいい」

こうして瞬く間に原始時代へとタイムスリップし、搜索していると五分とたたない間にその民族に会えた。

彼らは二人に対して好奇心を抱き、言葉は通じなくともどうにか分かり合えた。

彼らは木の実や魚をご馳走してくれ、二人のために踊りも踊ってくれた。

こうしてあつという間に朝から夜になり、タイムマシンのことも気がかりになったので帰ることにした。

二人は彼らにお礼としてライターを与えると、すぐ使い方を覚えて夢中になった。

二人は帰る途中、こんな他愛も無い話をしていた。

「いい人達でしたね。もう一度行けないでしょうか？」

「今はそれよりも金のことを考える。私達はもうすぐ歴史に名を残すのだ」

しかしその夢ははかなく散ることとなった。

二人は確実にもとの時代の元の場所に戻ってきたのだが、そこに研究室は無く、ゴミ捨て場だった。

二人の目の前では車がチューブの中を飛び、天まで届く高層ビルばかりが並んでいる。

どうやら原始人たちにライターを与えたために、彼らは文明を急激に発展させたらしい。

もうこの頃にはタイムマシンはすでに発明されているらしく、博士の発明はすいぶん幼稚なものになっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5606k/>

タイムマシンに乗せた希望

2010年10月11日18時20分発行